

2022年度の冬期対策について 説明を受ける！

「説明」とした理由

2022年度冬期体制については、これまでのように支社で要員体制を示して冬期対応を行うのではなく、箇所長の判断で業務の繁閑に応じて体制を取る。その場合、1日あたりの出面数に変更がないため提案ではなく、説明とした。

主な議論内容

- ・柔軟に対応するため箇所長の裁量で体制を取っていく。
- ・気象情報等を参考にして箇所長が判断していくことになる。
- ・安全安定輸送を大前提とし、かつ社員の健康にも配慮した要員配置を会社として管理していく。
- ・勤務変更の場合はルールに則って取り扱う。勤務変更が乱発しないように配慮する。
- ・緊急呼び出しや休日対応が増加するものとは考えていない。
- ・冬期対応のクオリティは低下させず、維持・向上させていく。

根拠として現在員数を示すべき！

昨年度からの主な変更点

【着発線変更等】

- ・羽後亀田駅が削除⇒工事の関係により今年度は主本線への変更をしない。

【乗務員のポイント不転換の初期対応の本実施】

- ・昨冬数件の実績があり、対応した乗務員の声を聞いた。安全上も問題はないと判断し本実施とする。
 - ・対応する駅として直轄駅も含めることとする。
- ⇒直轄駅でも時間帯や業務が輻輳している場合は乗務員に確認してもらう場合がある。

組合の主張：昨年実績があったからといって乗務員が出来ると安易に考えてはいけない！

乗務員が危険と判断した場合は対応させないことをあらためて確認！

【雪抱き込みによる停車時、乗務員による初期除雪を行う】

- ・乗務員に対応してもらうことで早期運転再開につなげたい。
- ・乗務員の除雪のみで運転再開までは難しい。同時に駅社員等の駆け付け対応を取る。
- ・危険箇所や悪天候時等、乗務員が危険と判断した場合は除雪は行わない。
- ・対応線区は秋田支社の乗務する全線区だが、653系は新潟支社所属車両のため除雪道具等を搭載しない。

【業務委託駅社員のポイント不転換対応】

- ・鷹ノ巣駅を追加する。
- ・ブロック長が行うという考え方は変わらないため、大館駅から駆け付けることになる。

【除雪機ガソリン運搬をセントラル警備保障株式会社（CSP）が行う】

- ・今までは駅社員が行っていたが、効率的に業務運営する上で判断した。
- ・湯沢、津軽地区については引き続きJR東日本東北総合サービス株式会社が行う。

その他の議論内容

- ・昨冬の状態を踏まえて、計画的かつ効果的に駅構内の除排雪を行っていく。
- ⇒東能代駅構内では排雪箇所がなかったが、箇所長の判断で裏2番線を潰して安定輸送を確保してきた。
- ・機械除雪はこまちルートについては毎日行う。津軽ルートは降積雪情報を参考にし適切に対応する。
- ・テンポラリースタッフの確保が難しい状況はある。引き続きCSPに置き換える等の対応を取る。体制としては昨年同程度とし、契約期間も同様である。
- ・（営業）統括センター化となり始めての冬期のため、営業・運輸が連携を取って対応していく。課題も出るかもしれないが今後に向けて重要な1年と捉えている。
- ・支社からの応援体制については現場と調整し必要であれば引き続き行っていく。
- ・新たに乗務員になった社員もいるためポイント不転換対応の教育等は引き続き行う。

安全かつ健康に冬期を乗り切るため、不安・疑問を議論しよう！